

脳血管内治療の進歩について



函館新都市病院
原口 浩一 院長

脳の手術には主に2つのアプローチがあります。

1つは頭蓋骨を開けて直接手術を行う「開頭手術」、もう1つは血管の中にカテーテルという細い管を通して治療する「脳血管内治療」です。しかし、この方法で対応できる疾患には限りがあり、症状や病状によっては開頭手術と脳血管内治療のどちらを選択するかが決まります。

脳血管内治療の分野では近年、目覚ましい進歩があります。特に脳梗塞や脳動脈瘤の治療において、非侵襲的な方法が多く、患者さんに新たな希望をもたらしています。

脳梗塞治療における血栓回収療法の普及は、大きな進歩の一つです。この方法

は、血流を塞いでいる血の塊をカテーテルで直接取り除くことにより、迅速に脳への血流を回復させることが可能です。適切な患者さんに対して早期に実施された場合、脳梗塞後の障害を著しく減少させる効果があることが示されています。

また、脳動脈瘤の治療では、近年カテーテル治療が主流になってきています。従来の開頭手術に比べ、カテーテル治療は患者さんの負担が少なく、回復も早いというメリットがあります。特に、フロロダイバーターやフロロディスプレイスラプターといった最新の治療デバイスは、複雑な形状の動脈瘤にも対応可能で、より多くの患者さんに効果的な治療選択肢を提供しています。

これらの先進的な治療手法は、医療技術の進歩により開発されてきました。患者さんのQOL(生活の質)の向上に大きく貢献しているのは事実ですが、適用には患者さんの状態や動脈瘤の特性によって制限があります。そのため、治療を受ける前に、技術と経験を持った専門の医師による詳細な診断と相談が不可欠です。

脳血管内治療の進歩は多くの患者さんの命と健康に寄与しており、さらに安全で効果的な治療法の開発が期待されています。

今後もさらなる進歩が期待できる治療分野です。

略歴

平成6年、札幌医科大学医学部卒業。平成23年、函館新都市病院脳神経外科 副院長を経て、平成29年、同院院長に就任。日本脳神経外科学会脳神経外科専門医。日本脳神経血管内治療学会脳血管内治療専門医。